

日本医療教授システム学会(JSISH)
2012 年度第2回理事会議事録

開催日時:2012 年 11 月 21 日(水)16:00~17:50

開催場所:新宿文化クイントビル(ファイザー株式会社) 18 階 会議室「18K」

出席者:池上敬一(代表理事)、石松伸一、木村昭夫(以上副代表理事)、大西弘高、
織井優貴子、軍神正隆、澤 智博、高橋優三、中西成元、中村丈洋、三上剛人(以上理事)、高橋誠治(監事)、山本完治(税理士)、井上まゆみ、氏家康子、村上 聡(以上事務局)

欠席者:浅香えみ子、奥寺 敬、喜多敏博、剣持 功、鈴木克明、武田 聡、田中祐次、中島和江、
(以上理事)、長坂 浩(監事)

会則 11 条 2 項により、池上代表理事を議長として開会した。

1. 議事録署名人の選出

木村昭夫理事、石松伸一理事が選出された。

2. 前回理事会議事録(案)の確認

池上代表理事より、2012 年度第 1 回理事会議事録案が示され、修正点等があれば事務局まで申し出ていただくこととなった。

(後日 e-mail で全役員による最終校正を行い、一部修正の上承認された。)

3. 交通費・宿泊費に関する内規について

事務局より案が示され、一部誤字等を修正の上、承認された。

4. 委員会再編等について

池上代表理事より提案、説明があり、審議の結果、以下のように進めて行くこととなった。

1) 委員会再編について

(1) 編集委員会(1つ目のレイヤー:サイエンス)

JSISH の活動を論文として収載する。JSISH の成長を支援する編集を行う。

(2) 教授システム開発委員会(2つ目のレイヤー:研究と開発)

研究、開発、評価を行う。

(3) 教育・トレーニング委員会(3つ目のレイヤー:医療現場での改革)

医療機関等の組織に教育・トレーニングを導入する。

(4) 総務委員会

現場のニーズ・アイデアの探索とプロジェクト化を支援する。

上記3委員会に整理できない活動の支援を行う。

2) ワーキンググループについて

会員の自発的活動(研究・開発)を理事が支援することを目的とする。

設置・活動の手順は以下の通りとする。

(1) 活動計画書を理事(WG 担当理事)に提出・リバイス

(2) 理事会のメール審議を経て承認

(3) WG の活動をオーソライズし、必要に応じて招聘状を発行

(4) WG の活動を財政的に支援する仕組みを考案する

(5) 年 2 回の理事会で担当理事が進捗を報告

(6) WG は成果を総会で発表、JJHPE に論文掲載、開発した教材の IP は JSISH に帰属

なお、当分は一般公募を行わずに、理事を通じて設置することとし、設置に関する相談窓口は池

上代表理事が務めることとなった。

5. 事業・報告事項

池上代表理事より以下の報告があり、了承された。

1) 定期開催事業

ISD・ARCS セミナー、教育・研修の実践を論文にするセミナー、事例研究会 (ISD/研究の実践をブラッシュアップ) を実施した。

2) JSISH-ITC の活動

NAEMT と AMLS/PHTLS の開催を契約した。今後、東大グループへの組織的な普及事業へ発展の予定である。

なお、契約に至る経緯等につき軍神理事から補足説明があり了承された。

3) 地方会について

中国・四国支部が発足し、本会会則に準じて支部会則が策定された。

4) 医学教育学会活動への関与

インストラクショナル・システムズ・デザインによる授業・実習改善ワークショップ (MEDC) の企画に協力・参加した。

6. 今後の事業計画について

池上代表理事より提案があり、以下のように了承された。

1) 患者安全トレーニングプログラム (Rapid Response Team トレーニングプログラム)

ワーキンググループ (担当: 池上代表理事) として行う。第 5 回 JSISH 総会でリリース予定である。

2) 看護師スタートアップ教育プログラム

ワーキンググループ (担当: 池上代表理事) として行う。第 5 回 JSISH 総会でプレゼンテーション予定である。

3) 地方会について

今後は地方の動向・意向により、理事会承認を経て支部を順次設立可能とすることとなった。あわせて、現時点では奥寺理事から中部地方会の設立申請を受領していることが報告され了承された。

なお、各支部の自由な活動については認めるものの、支部と本部との関係性、会則策定のルール等については、今後も継続審議していくこととなった。

また、本会とは別組織として設立を認める方向であれば、地方会会員であれば本学会学会誌に等可能とする、あるいは学術集会には会員扱いとして参加できる、等のメリットを認めてはどうかとの意見が述べられた。

4) JSISH-ITC の活動について

従来、JSISH の下部組織として AHA コースを開催してきたが、今後は教育・トレーニング委員会の小委員会として活動する。病院トレーニングサイトの構築支援、GEMS プログラムの開発等を行う。

なお、GEMS プログラムについて、木村理事より補足説明があった。

5) その他

(1) 現場を変革できる医療者の育成 (教授システム開発委員会)

(2) 「シミュレーション医療学習の原理と実践」の発行 (編集委員会)

(3) 救急救命士のパフォーマンス向上・消防署内の教育力強化

(4) 卒前教育教員・卒後研修指導者の能力向上

7. 評議員会設置について

池上代表理事より、今後のプロセスとして以下が提案され了承された。

- 1) 前回理事会で設置したワーキンググループ(メンバー:浅香、木村、石松、大西、鈴木、奥寺、武田の各理事)で制度の骨格を策定いただき、2013年の第5回総会時の理事会において審議を行う。
- 2) 2014年の第6回総会時に第1回の評議員会を開催する。

8. 学会予算について

池上代表理事より、本会は任意団体で収益は課税対象となること、ワーキンググループによる研究・開発の支援等の予算を捻出する必要があるが、本会で開発した教材が収益源となり得ること、などの背景について説明があった。

以上の背景から、今後、収益事業については学会で行わずに、AHA コース開催(JSISH-ITC)のカード発行手数料処理を担当する目的で設立されたラーニング・システムズ(株)で行ってはどうかとの提案があった。具体的には、以下のような形となる。

- ・ラーニング・システムズは教材開発を JSISH に発注し、開発コストを支払う。
- ・「救急隊員のための確実に伝わるファーストコール」JSISH 監修について

出版契約は羊土社とラーニング・システムズ(LS)で行い、印税はすべて LS へ入る(著者は無償ボランティア)。執筆は JSISH 会員に依頼し、契約上、著作権は LS が所有する。LS は本教材開発と普及に関わる JSISH の活動を財政支援する。

- ・ラーニング・システムズは JSISH 総会に協賛(ブース、ランチョンなど)が可能。

続いて、山元税理士より、本案を実行した場合のメリットおよび税務上の処理方法などにつき説明があった。

以上について審議を行った結果、原案通り承認された。

9. その他

1) 事務局・井上氏より、学会名義で開催している KIDUKI コースの 2009-2011 の出納について報告があり、あわせて残額の 207,879 円を学会に寄付することが説明され了承された。

2) 石松理事より、次回の第 5 回総会において、子どもたちにシミュレーターなどに触れていただく Kids プログラムを計画しているとの報告があり了承された。

あわせて、本プログラムの対象とする子どもについて検討を行い、参加者のお子さん(小学生～中学生)を対象とすることとなった。

以上